

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

令和2年7月号



【海草振興局】 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】  
～ みかんマルチ推進キャンペーンに係る実証園を設置 ～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



<b>I 海草振興局</b>	<b>1 - 3</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～みかんマルチ推進キャンペーンに係る実証園を設置～	
2. 和海地方農業士会女性部会研修会を開催しました	
3. 令和2年度女性農業者交流会（第1回）を実施	
4. 和歌山大学教育学部附属小学校にて「米の出前授業」を実施	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>4</b>
1. モモ新品種「さくひめ」「つきあかり」の生産振興に向けた取り組み	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5 - 6</b>
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～「紀州てまり」の肥大調査～	
2. 高野山麓精進野菜栽培講習会(秋冬野菜)を開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>7 - 8</b>
1. 山椒栽培を目指して干山椒収穫を体験！	
2. みかんの摘果授業を開催！	
<b>V 日高振興局</b>	<b>9</b>
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>10 - 11</b>
1. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を設置	
2. 水稻採種ほ場の出穂期におけるほ場審査を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>12 - 13</b>
1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～U I ターン就農相談フェア出展および産地面談会の実施～	
2. 那智勝浦町の小学生がミニトマトの収穫と袋詰めを体験	
3. 三津ノ地域活性化協議会がエダマメの試作販売を実施	
<b>VIII 農林大学校就農支援センター</b>	<b>14</b>
1. U I ターン就農相談フェアを開催	

## I 海草振興局

### 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～みかんマルチ推進キャンペーンに係る実証園を設置～

県では、温州みかんの生産量、産出額、販売単価の3冠日本一（H30年度順位：生産量1位、産出額1位、販売単価8位）をめざす一貫として、今年度から水田転換園等での高品質果実生産を図るため、県内13ヶ所に巻き上げ方式による『新方式マルチ栽培実証園』を設置しマルチの普及を推進している。

海草管内では、上記プロジェクトの指導課題である「魅力ある園地へのチャレンジ推進活動」のひとつとして、指導対象であるJAながみね下津柑橘部会員が管理する2園地（①「宮川早生」：15a、②「ゆら早生」：15a）を実証園に選定し、7月16日、21日に園主と関係機関職員（JAグループ和歌山農業振興センター、JAながみね、農業共済組合、海南市、県）延べ22名でマルチ敷設作業を行った。当日は暑い中での作業となったが、スムーズに敷設することができ、園主からは「水分ストレスの調整により果実品質の向上が期待できそう」と言った感想が聞かれた。

農業水産振興課では、今後、JAながみねと連携して実証園の出荷点数表や評価データを基にマルチ敷設による果実品質の向上や収入アップにつながる効果等の検証を行い、次年度以降のマルチ敷設推進活動に生かしていきたいと考えている。



設置作業



設置状況

### 2. 和海地方農業士会女性部会研修会を開催しました

7月21日、和海地方農業士会女性部会研修会を実施し、部会員7名が参加した。研修会では、温州みかんの「ふろしき樹幹上部摘果」、「草生栽培」の技術を導入している2圃場を見学した。

ふろしき樹幹上部摘果については、海南市下津町梅田の園地において、JAながみねしもつ営農生活センター井上一営農相談員から被覆の実演や摘果の効果などに関する説明があり、被覆期間や資材などについて質疑があった。

草生栽培については、下津町丸田の岩本治氏の圃場を見学した。岩本氏は様々な草種を実

際に植えて温州みかん栽培への適応性を調査しており、中でも「ヒメイワダレソウ」は抑草効果が高く、みかんの生育への影響もないのでよいとのことであった。園地見学では、「肥料は増やさなくていいのか」、「地面がフワフワしていて膝への負担も軽くなりそう」など質疑や意見交換が行われた。

猛暑の中での開催であったが、省力化技術を実際に見ることができ、有意義な研修会となった。



ふろしき樹幹上部摘果の説明



草生栽培の見学

### 3. 令和2年度女性農業者交流会（第1回）を実施

7月30日、「ユーカリ栽培について」と題して、海草管内の女性農業者を対象に交流会を行った。女性農業者交流会は、平成30年度から実施しており、同年代の女性農業者同士を繋げ、農業現場での知識習得を目的に実施している。今回、管内で栽培が増えており、収穫期間が長く、主力のみかんや柿との複合経営が可能であるユーカリを取り上げたところ、女性農業士を含む5名の参加があった。

交流会では、10年ほど前からユーカリの振興に尽力しているJAながみね山田氏を講師に迎え、ユーカリ栽培の基本について講義を受けたのち、現地視察を行った。参加者は、ユーカリの栽培方法、品種の特徴や販路などについて熱心に耳を傾けていた。ユーカリを栽培している参加者もあり、参加者同士で活発に意見交換が行われた。

交流会後のアンケートでは、「現場を見ることができてよかった」、「できることなら作ってみたいと思います」や「いろいろ聞けてよかった。老後のことも考えてどうかな」のような感想があった。

次回は10月の開催を予定しており、農業水産振興課では引き続き女性農業者の活動支援に力を入れていく。女性農業者交流会や新規就農者研修会の情報は海草振興局農林水産振興部のホームページで随時公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/nourin.html>)



ユーカリ栽培の基本を話す山田氏



現地研修の様子

#### 4. 和歌山大学教育学部附属小学校にて「米の出前授業」を実施

和歌山大学教育学部附属小学校 5 年生（95 名）は、田植えや稲刈り体験などを通して農業や食べ物への知識や大切さを学んでいる。この授業の一貫として、農業水産振興課は、7 月 7 日、米の出前授業を行い、川村普及指導員と田端技師から稲の生育過程や米の品種などについて説明した。

児童たちは、米の品種や消費量の話に興味深く耳を傾けて、知っている品種を発表したり、現在の米の消費の少なさに驚いたりと積極的な姿勢で授業に参加していた。質疑では児童から「なんで消費量が減ったの?」、「どんな栄養があるの?」など多くの質問があった。

当課では今後も小学校を対象とした農業教育の支援を行っていく。



授業に参加する児童たち

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. モモ新品種「さくひめ」「つきあかり」の生産振興に向けた取り組み

7月2日、かき・もも研究所において、和歌山県桃研究協議会（会長：山名純一氏）主催で新品種「さくひめ」の試食検討会及び現地見学が開催され、JA紀の里、JA紀北かわかみ、和歌山県農業協同組合連合会、県果樹園芸課、経営支援課、かき・もも研究所、海草振興局、那賀振興局、伊都振興局から計19名の出席があった。

最初に、同研究所堀田主査研究員から「さくひめ」の生育状況や品種特性について説明があり、「日川白鳳」と比較して果実が一回り大きく、収穫期間が長いという特性が報告された。参加したJA紀の里営農指導員からも概ね評価が高かった。

試食検討会では参加者から「果肉がしっかりしているので棚持ちが期待できる」との声があった一方、「果皮色だけでは収穫時期の判断が難しいため、収穫に技術を要するのではないか」といった意見が出された。

続いて、現地圃場（紀の川市嶋、同杉原）の見学が行われ、「さくひめ」の特徴として葉芽が少なく、既存品種と同じような枝梢管理ができないなど説明があった。



「さくひめ」試食検討



「さくひめ」現地見学

また、農業水産振興課では、7月8日、かき・もも研究所と共に管内の「つきあかり」圃場9ヶ所の調査を行った。

本調査は、生産者により品質及び収量にばらつきが大きいことから、各種栽培条件を調査し品質向上を図るために実施している。

「さくひめ」「つきあかり」はともに今後の主力品種として期待されており、当課では引き続き生産振興に向けた取り組みを関係機関とともに進めていく。



「つきあかり」現地調査



「つきあかり」果実調査

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～「紀州てまり」の肥大調査～

農業水産振興課ではかき・もも研究所において育成された新品種甘柿「紀州てまり」（品種登録：平成31年4月23日）の普及促進を図っている。現地適応性を調べるために橋本市（2カ所）、かつらぎ町（1カ所）、九度山町（2カ所）の5カ所の柿園において、「紀州てまり」の穂を高接ぎし、生育調査を行っている。

7月22日と28日、かき・もも研究所と協力して摘果と肥大調査を行った。

果実肥大は開花からの日数や、高接ぎを行った園地の標高等によって差がみられた。

また、昨年と比較してやや小さい傾向が認められた。

「紀州てまり」は和歌山県オリジナル甘柿として管内で注目されている。今後、果実の生育や収穫日、収量、果実品質等の調査を行い、情報発信していく。



「紀州てまり」の肥大調査



摘果後の「紀州てまり」果実

## 2. 高野山麓精進野菜栽培講習会(秋冬野菜)を開催

高野山麓農産物産地化協議会（会長：北岡慶久氏）は、7月8日、橋本市教育文化会館において、秋冬野菜講習会を開催し、生産者や新規栽培希望者20名が参加した。

高野山麓農産物産地化協議会は、平成31年3月に設立され高野山精進野菜としての栽培基準を設け地元野菜のブランド化を目的に活動を行っている。

当日は、橋本市農林振興課の岡本課長補佐が農産物産地化の事業について説明し、続いて農業水産振興課の久保普及指導員からダイコン、ニンジン、ハクサイ等の秋冬野菜の栽培方法について、JA紀北かわかみ営農課平岡主事から病害虫防除と農薬等の使用上限についてそれぞれ説明した。

受講者からは病害虫の防除方法や施肥方法等の質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等の支援を行っていく。



講習会

## IV 有田振興局

### 1. 山椒栽培を目指して干山椒収穫を体験！

有田振興局では、障害者が農業分野の作業に取り組み、社会参加を実現する農福連携を進めている。

有田管内の社会福祉法人千翔会（就労継続支援事業はまごころランドとして実施）では、有田地方の特産品であるブドウ山椒を加工販売している。今は原材料を購入しているが、ゆくゆくは栽培から加工販売まで一貫した取組を目指している。また、就労継続支援事業でも山椒収穫での地域貢献ができないか模索している。

7月27日、就労支援を実施している「まごころランド」では、有田川町清水下湯川の園地において、作業員5名とスタッフ8名が干山椒果実の収穫を体験した。

当日は、JAありだ清水営農センターの中西営農指導員から収穫方法と注意点の説明の後、作業員達は二人一組で6本の樹に分かれて、山椒の独特の香りがする中、取り残しが無いよう注意して果実を房ごと収穫した。今回は、総収穫量6kg程度であったが、作業員達には貴重な経験となった。

当課では今後も、福祉施設と生産者（生産者団体）の連絡調整やマッチング、補助事業の紹介などサポートしていく。



中西営農指導員からの説明



二人で協力して収穫体験

## 2. みかんの摘果授業を開催！

有田市立保田小学校（中西和美校長）では、地元産業への理解を深めるため、3年生（55名）の総合学習の授業で、7月16日に温州みかんの摘果を行った。

授業では、農業水産振興課上野山普及指導員がみかんの生産量や栽培管理を説明した後、学校付近の園地で有田市農業士会（会長：上野山良知氏他5名）指導のもと、摘果体験実習を行った。

児童からは、「どの実を摘果したらいいの？」、「摘果しないとどうなるの？」といった質問が数多く飛び出した。次回は11月に収穫とジュース絞り体験を行う予定である。

今後も、当課では農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



みかんの栽培管理について説明



摘果体験

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木を内部から食い荒らし枯死させる特定外来生物である。県内では、2019年にかつらぎ町で初めて被害が確認され、2020年には岩出市、橋本市、紀の川市へと発生域が拡大していることから、今後日高地方への被害発生が懸念されている。

7月20日～31日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,812本）の第2回目巡回調査を実施した。

サクラ樹の主幹根元から高さ4mまで、1樹ずつ目視調査を行ったが、本虫のフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）や成虫の発生は確認されなかった。

また、各市町やJAの広報紙の活用や防除啓発チラシの配布を行っており、これまでに生産者や一般住民からの通報が3件寄せられ、関係機関の担当者らが現地を確認した結果、いずれもクビアカツヤカミキリは確認されずゴマダラカミキリムシ等の在来害虫であった。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、生産者や一般住民等への啓発を行うことで、本虫の早期発見、早期防除に努めていく。



クビアカツヤカミキリのフラス及び成虫の発生状況を調査（みなべ町、御坊市）

## VI 西牟婁振興局

### 1. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を設置

ウメやスモモ、モモ、サクラ等のバラ科やコナラ等ブナ科の樹木を食害する特定外来生物のクビアカツヤカミキリが、県内で発生地域を拡大しており、農地、森林、公園、河川敷等で繁殖・生息域の拡大が懸念されている。

西牟婁地方では、現在のところ発生は確認されていないが、発生した場合はウメをはじめとする果樹農業への影響が大きい。このため、西牟婁地方の各市町、JA紀南、林業試験場、うめ研究所（農作物病虫害防除所みなべ駐在）、西牟婁振興局（健康福祉部、農林水産振興部）が連携して警戒にあたることを目的に、西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）を7月21日に設置した。

活動内容は、①情報共有体制の整備、②クビアカツヤカミキリの侵入防止に係る啓発（農業者以外を含む）、③発生確認調査の実施、④発生時の緊急調査や被害拡大防止措置の実施などで関係機関が連携を密にして取り組んでいくことを申し合わせた。



クビアカツヤカミキリ成虫



西牟婁地方クビアカツヤカミキリ  
連絡会議

## 2. 水稻採種ほ場の出穂期におけるほ場審査を実施

県では、水稻の優良種子の生産確保並びにその円滑な流通を推進することを目的に、和歌山県農業協同組合連合会、J A紀南とともに生産者への採種ほ場の設置依頼と採種ほ場での巡回指導や審査を行っている。

採種ほ場は田辺市中辺路町と上富田町に計4か所設置し、「キヌヒカリ」、「ミネアサヒ」と「きぬむすめ」の3種を作付けしている。7月10日に生育状況の確認を関係職員4名で実施したところ、コブノメイガに葉を食害されたほ場が多く確認されたが、いずれも収量に大きな影響を及ぼさない程度であった。

また、出穂期にあたる7月27日、7月30日に、異種・変種の混入や病虫害の審査を、農業水産振興課の村畑普及指導員と橋本技師、J A紀南営農指導員が実施した。今年は6月下旬から7月下旬の長雨の影響で日照時間が短く、例年よりも出穂が3日ほど遅れた地域が多かったが、生育に大きな影響は見られなかった。しかし、長雨が続いたことから今後、いもち病の発生に注意するよう園主に指導した。

当課では、今後とも関係機関と協力し、登熟期にも巡回指導を実施し、適切な採種ほ場の栽培管理を指導していく。



採種ほ場の生育状況（田辺市中辺路）



採種ほ場審査の様子（上富田町）

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～UIターン就農相談フェア出展および産地面談会の実施～

7月5日、第1回UIターン就農相談フェアが和歌山県JAビルで開催され、JAみくまの及び農業水産振興課のブースとして出展した。

相談会で当ブースには2組3名が訪れた。相談者の内の1組からは、「神奈川県在住で東牟婁地方出身であるが、地元に戻りイチゴ栽培を行いたい。どのような支援・助成があるか？それに対してJA・県のサポート体制はどうなっているか？」等の質問があった。

当課の橋本、浅井、坂井普及指導員は、農業次世代人材投資事業（準備型・経営開始型）の説明やくろしお苺生産販売組合（イチゴセミナー）の活動、生産施設に対する支援事業等を説明した。また、JAみくまの営農経済部森課長は、JAトレーニングファームの取り組み（研修内容等）を紹介した。

7月31日、第1回みくまの産地協議会（漆畑繁生会長）の産地面談会がJAみくまの太田営農センターで開催され、第1回UIターン就農相談フェアの相談者（神奈川県在住）が出席した。面談の結果、相談者はJAトレーニングファームや地元の農家での研修を経てイチゴ栽培を行うことに決定した。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、イチゴ就農プログラムを活用した就農相談を実施し、JAみくまのトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ体制整備を進めていく。



UIターン就農相談フェア(7月5日)



みくまの産地協議会産地面談会(7月31日)

### 2. 那智勝浦町の小学生がミニトマトの収穫と袋詰めを体験

7月10日、那智勝浦町立勝浦小学校3年生約40人が、同町井鹿でミニトマトの収穫体験を行った。この取り組みは、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として小学生を対象とし開催している。

児童たちは、ミニトマトハウスで杉浦仁氏（同対策協議会会員）から収穫の方法や注意点について説明を受け、その後、杉浦氏のアドバイスに従い、実のたくさん着いた房からてい

ねいに1個ずつ収穫した。1人あたり15個ほどのミニトマトを収穫した。

収穫後、児童たちはJAみくまの太田営農センター集出荷場で、収穫したミニトマトから形や色の良い果実を選別し、事前に自分たちが作成したポップとともに袋詰めした。

袋詰め終了後の質問の時間には、児童から「ミニトマトはなぜ赤いのか?」、「このミニトマトはどこで売られているか?」などの質問があり、杉浦氏が身振りを交えながら丁寧に回答した。袋詰めしたミニトマトは、新宮中央青果を通じて地元の青果店で販売された。

当課では、今後も新宮周辺地場産青果物対策協議会の活動を支援していく。



収穫方法の説明



質問の時間

### 3. 三津ノ地域活性化協議会がエダマメの試作販売を実施

三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保）は、新宮市熊野川町の三津ノ地域でエダマメのモデル展示圃を設置し、試作販売を行った。

この地域は、熊野川と赤木川の合流付近にあり、台風などによる冠水被害が多発する。この対策として台風の時期までに収穫ができ、地元での需要があるエダマメ、トウモロコシ、タマネギを選定し、モデル展示圃が設置された。

今回収穫したエダマメは、カメムシの被害を少し受けたが、選別がしっかり行われた。選別後は、1袋当たり300g以上で袋詰めし、JAみくまのAコープや地元直売所へ出荷した。

エダマメの試作では、出荷調整作業に時間を要したが、は種作業や開花後の殺虫剤散布など主要な作業の回数が少ないため省力的で、需要もあることから導入しやすい品目であった。今後、当課では協議会、JAみくまのと連携しながら、は種時期や害虫防除、出荷調整の省力化を検討し、エダマメ、トウモロコシ、タマネギを推進品目として、周辺農家への導入を推進していく。



エダマメの調整作業



販売荷姿（300g/袋）

## Ⅷ 農林大学校就農支援センター

### 1. UIターン就農相談フェアを開催

7月5日、和歌山県JAビル(和歌山市)においてUIターン就農相談フェアを開催した。

相談会には県内への就農を考えている22組29名(県内7組、県外18組、不明1組)が来場し、それぞれのブースでは就農に向けてのアドバイスや支援策・研修の説明を幅広く行った。今回の相談フェアは、新型コロナウイルス対策として、飛沫防止シートを張るなどして実施した。

また、相談者がより就農時の経営と暮らしの見える化を図ることができるよう、市町村や農協にも出展を募り、それぞれの支援や研修制度などについて情報提供を行った。

相談と並行して新規就農セミナーを開催した。このセミナーでは、就農支援センターで研修を修了し就農した方たちが、農業を始めた際の苦労話やアドバイス、現在の状況などについて発表し、質疑応答が行われた。参加者からは「就農するまでに必要な準備や心構えについて知ることができてよかった」等の声が多数聞かれた。

今年度は、12月13日と3月7日にも同会場にてUIターン就農相談フェアを行う予定であり、新型コロナウイルス感染症対策を強化しつつ、相談フェアの充実度を増していきたい。



相談ブース1



相談ブース2



相談ブース3



新規就農セミナー

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489